

「Hear Our Voice 7 ～子ども参加に関する意識調査 2012～」結果(速報)

(2012年9月7日現在)

国際子ども支援 NGO セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン(以下 SCJ)は、東日本大震災復興支援事業の柱の一つとして、“子どもにやさしい地域づくり”を掲げ、2011年5月より子ども参加によるまちづくり事業“Speaking Out From Tohoku (SOFT)～子どもの参加でより良いまちに！～”を実施しております。本事業を通じて、地域の復興やまちづくりに対し、地域の一員である子どもたち自身が声をあげ、社会に参加することで、より良いまちをつくることを目指しています。

2011年5月下旬から6月上旬にかけて、岩手・宮城県5地域の小学4年生～高校生約1万1千人を対象に、「Hear Our Voice 1～子ども参加に関する意識調査～」(※1)を実施しました。その結果、被災した子どもたちの約9割が自分たちの住む地域の復興に向けたまちづくりに、みずから進んで参加したいと考えていることが明らかになりました。

SCJは、本調査を継続的に実施していくことで、地域の子どもの大人も子ども参加に関する意識を把握し、子ども参加によるまちづくりの促進につなげようと考えています。約1万5千人の子どもたちが、地域の復興に参加することについてどのように考えているのか、ぜひ子どもたちの声に耳を傾けてください。

本調査に参加してくれた子どもたち、実施にあたりご協力いただいた行政、学校、地域関係者、関係団体のみなさまに、あつく御礼申し上げます。

※1 「Hear Our Voice1～子ども参加に関する意識調査～」 http://www.savechildren.or.jp/scjcms/sc_activity.php?d=434

I. 調査概要

1. 調査の目的

本調査は、東日本大震災後の地域の復興に子どもが参加することについて、子ども自身がどのように認識しているかを把握するために実施した。その一方で、子どもが復興に参加するためには、大人のサポートが必要であるため、大人の「子ども参加」への意識を知るために、大人に対しても調査を実施した。

2. 調査の状況

・調査地域：岩手県山田町、岩手県陸前高田市、宮城県石巻市 (SCJ「子どもまちづくりクラブ」実施地域)

・調査対象：

子ども…対象地域内にある学校に通う小学4年生～高校生、合計16,171人

(小学校60校、中学校29校、高校15校、特別支援学校4校 :計108校)

大人…対象地域内にあるすべての世帯、合計69,782世帯

・調査方法：

子ども…小中学校は教育委員会を経由し文書箱にて送付、高校は直接送付し、教師のガイダンスによる自記式で回答。特別支援学校については、必要に応じて教師のガイダンスを丁寧に行い、自記式で回答。

大人…自治体の協力のもと対象地域全世帯に配布し、各世帯の中で19歳以上の1名が自記式で回答。

・調査期間：2012年6月19日～8月1日

・有効回答数：子ども14,600件、大人5,296件

Ⅱ. 結果概要

1. 子どもの結果について

子どもの調査結果の概要については下記の通り。詳細はⅢ以下を参照。

- ① 約7割の子どもたちが「自分のまちの復興に関わりたい」と回答し、子どもたちは2011年度の調査と同様に地域の復興に関わりたいと考えている。2011年度の調査結果と比べ、「復興に関わりたい」と回答した子どもの割合は減ったが、関わりたくない理由として「忙しい」が多く、震災前の日常性が徐々に回復しつつあることが原因だと考えられる。
- ② また「復興に関わりたい」という意識は高いが、「実際に関わった」という子どもの割合が少ない結果となった。
- ③ 「関わりたくない」「関わっていない」理由の中で「何をしたらいいか分からない」、「かかわる機会がない」が突出しており、子どもが復興に関わることについての情報や機会の提供が少ないことが原因だと考えられる。
- ④ SCJの「子どもまちづくりクラブ」を知っている子どもの方が、「復興に関わりたい」、「実際に関わった」双方について割合が高い。

2. 大人の結果について(※2)

- ① 「子どもは地域の復興に関わりたいと思っている」、「子どもたちは地域の復興のために何かしたことがある」と回答した大人の割合が多かった。内容については、いずれも「復興について話し合う・意見を発信する」、「地域行事への参加」という回答が多数あった。
- ② 「子どもは復興に関わりたくないと思っている」、「子どもは復興のために何もしたことがない」の理由としては、「何をしたらいいか分からない」、「関わる機会がない」、「忙しい」という回答が多かった。
- ③ さらに、大人には次の4つの質問にも回答してもらった(いずれも4段階の選択式回答)。
 4. あなたは、地域の子どもが復興にむけたまちづくりに参加することをどう思いますか
 5. あなたは、地域の子どもたちが地域の復興に関わることに協力したいと思いますか
 6. あなたは、地域の復興について子どもの意見を聞いていると思いますか
 7. あなたは、ふだんから子どもの意見を聞いていると思いますか4および5について、大多数が肯定的な回答をしており、子どもが復興に向けたまちづくりに参加することについて、概ね肯定的な印象を持っていることがわかった。また、7でも肯定的な回答が過半数であった。
- ④ しかし6については、肯定的な回答がかなり少なくなっており、子どもが復興に向けたまちづくりに参加することは良いと考えおり、ふだんから子どもの意見は聞いていると考えているものの、実際には復興に関する子どもの意見は十分には聞いていないと言える結果になった。

※2 調査の制約について

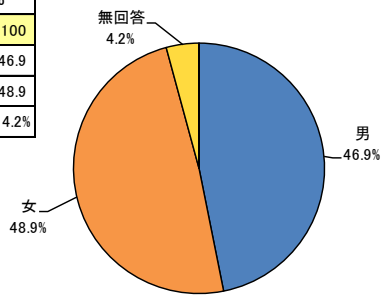
大人の調査を行うにあたって、標本調査に必要となる上記調査地域の成人人口の名簿などの個人情報が一 NGO では入手不可能であったため、自治体の協力を得て、全世帯を対象とした郵送調査を実施した。しかしながら、回収率が低く、調査結果にポジティブ・バイアス(肯定的先入観)がかかっている可能性が否めないため、大人の調査結果はあくまでも参考事例として紹介するにとどめる。

Ⅲ. 質問項目および集計結果

1. あなた自身について教えてください。

(1) 性別

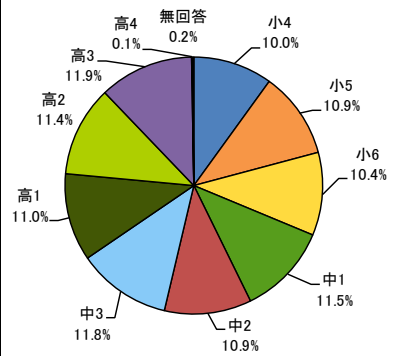
	調査数	%
全体	14,600	100
男	6,841	46.9
女	7,144	48.9
無回答	615	4.2



※3: 無回答については、下記の注記を参照。

(2) 学年

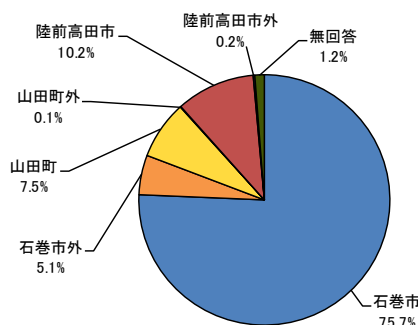
	調査数	%
全体	14,600	100
小4	1,453	10.0
小5	1,589	10.9
小6	1,525	10.4
中1	1,675	11.5
中2	1,596	10.9
中3	1,719	11.8
高1	1,609	11.0
高2	1,662	11.4
高3	1,731	11.9
高4	14	0.1
無回答	27	0.2



※4: 「高4」については、下記の注記を参照。

(3) 地域

	調査数	%
全体	14,600	100
石巻市	11,047	75.7
石巻市外	747	5.1
山田町	1,100	7.5
山田町外	13	0.1
陸前高田市	1,485	10.2
陸前高田市外	30	0.2
無回答	178	1.2



※5: 「石巻市外」「山田町外」「陸前高田市外」については、下記の注記を参照

※3 : 性的マイノリティに考慮するため、石巻市対象の調査票には「答えたくない」という選択項目も用意したが、山田町および陸前高田市に配布した調査票にこの項目が含まれなかったため、データに齟齬が生じた。データの一貫性を保つために、石巻市の「答えたくない」という回答も、今回は「無回答」に含めている。

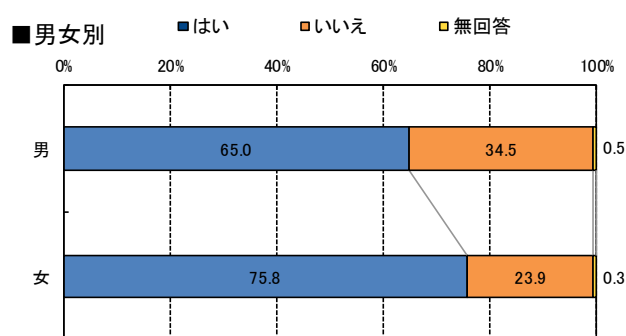
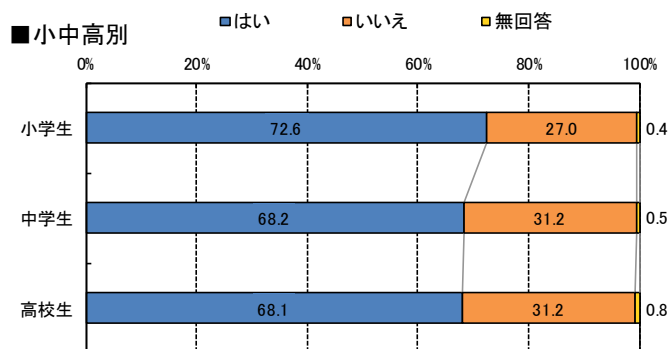
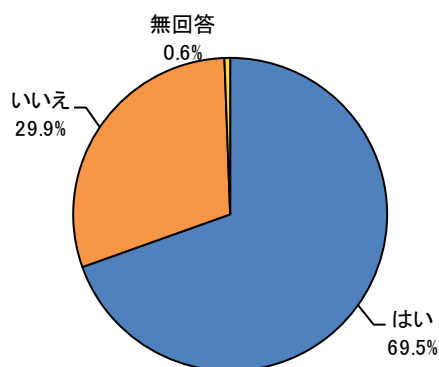
※4 : 定時制課程の高校が1校含まれているため、「高4」という選択項目がある。

※5 : 今回の調査は石巻市・山田町・陸前高田市の学校で実施したが、各市町外に在住し、各市町に通学している児童・生徒がいるため、それぞれ「石巻市外」「山田町外」「陸前高田市外」としている。

2-（1）. あなたは、自分のまちの復興にかかわりたいと思いますか？

10,152人(69.5%)の子どもが「はい」と回答した。小中高別では、小学生が中高生に比べ、やや「はい」の割合が高く、男女別では女子の方が男子に比べ、11%程度「はい」の割合が高い。

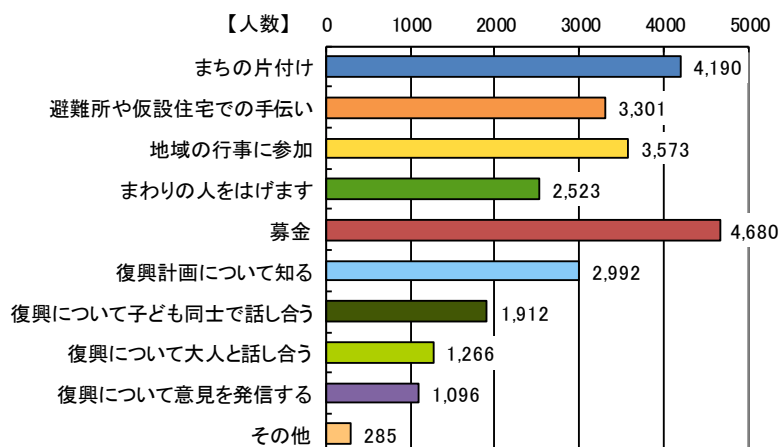
	調査数	%
全体	14,600	100
はい	10,152	69.5
いいえ	4,363	29.9
無回答	85	0.6



2-（2）. 「はい」の人は、そのためにどんなことをしたいですか？（複数回答）

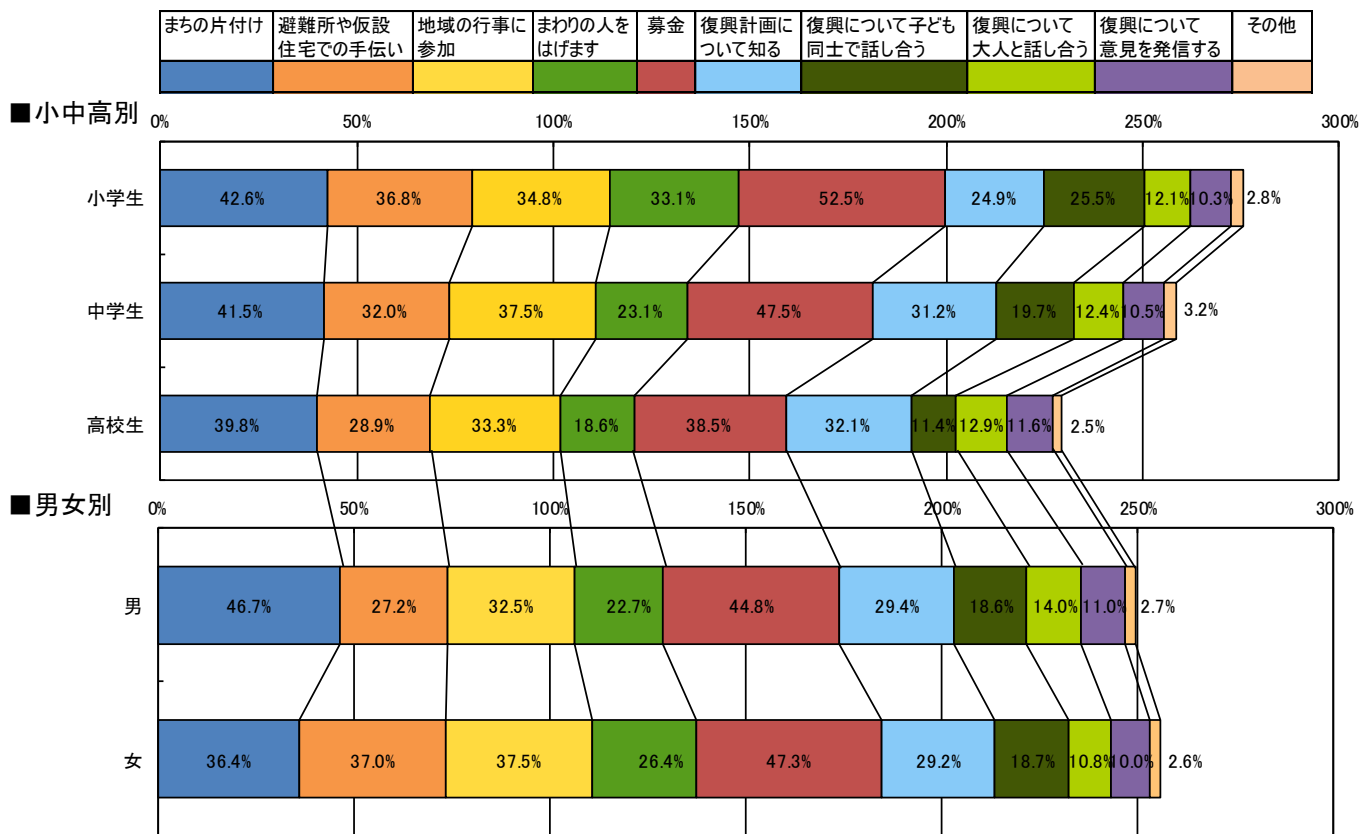
「募金」、「まちの片付け」が多かった。また、「復興計画について知る」という項目も子どもの3人に1人が選択しており、自分のまちの復興に向けた動向について関心が高いと言える。小中高別の傾向としては、小学生は「復興について子ども同士で話し合う」ことを、中学生は「復興計画を知る」ことを望んでいる。

	調査数	%
全体	10,152	100
まちの片付け	4,190	41.3
避難所や仮設住宅での手伝い	3,301	32.5
地域の行事に参加	3,573	35.2
まわりの人を上げます	2,523	24.9
募金	4,680	46.1
復興計画について知る	2,992	29.5
復興について子ども同士で話し合う	1,912	18.8
復興について大人と話し合う	1,266	12.5
復興について意見を発信する	1,096	10.8
その他	285	2.8
無回答	73	0.7



※複数回答のため、% 合計は 100%を超えている。

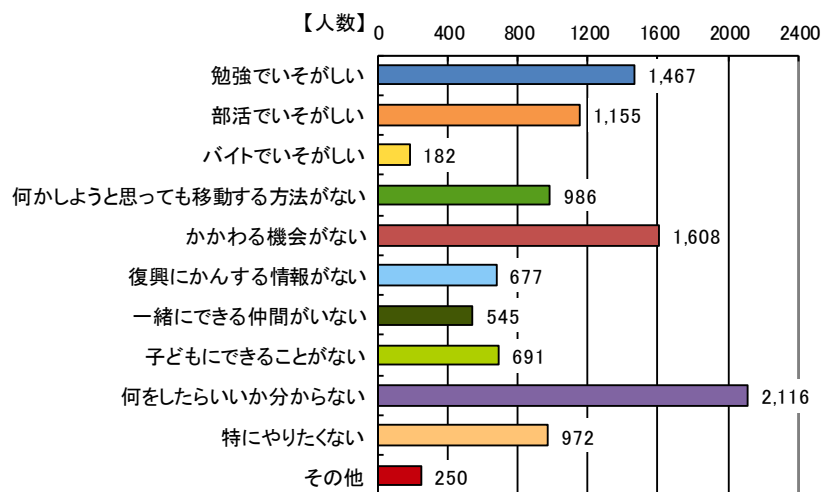
【属性ごとの回答】



2-(3). 「いいえ」の人は、その理由を教えてください。(複数回答)

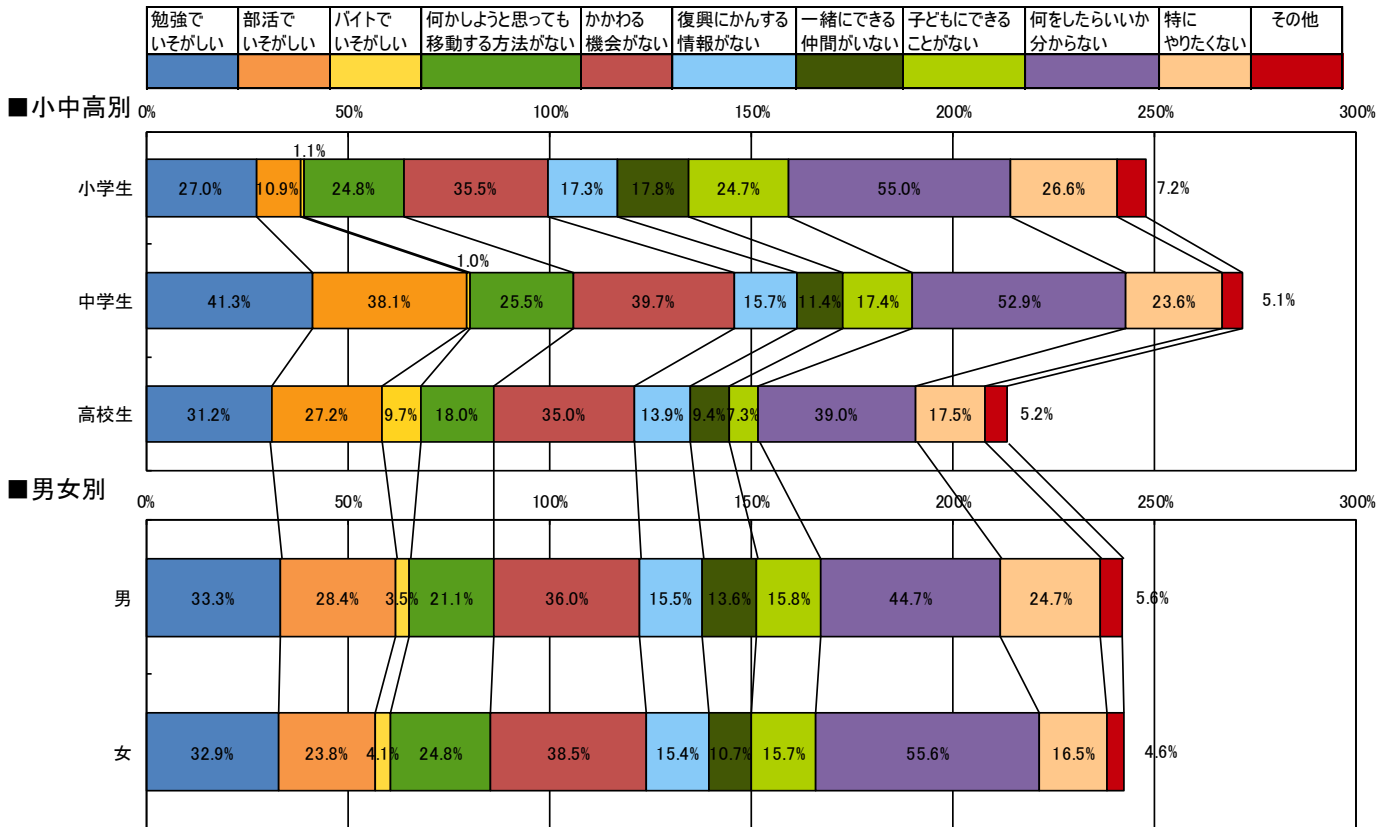
「何をしたらいいかわからない」、「かかわる機会がない」が多く、復興に関わりたいが、情報や機会が提供されておらず、することが分からないために子どもたちの参加意欲がそがれている可能性がある。また、次いで「勉強でいそがしい」、「部活でいそがしい」が多かったが、「いそがしい」については、特に中高生で選択した割合が高く、震災前の日常性が徐々に取り戻されつつあることが一因と考えられる。

	調査数	%
全体	4,363	100
勉強でいそがしい	1,467	33.6
部活でいそがしい	1,155	26.5
バイトでいそがしい	182	4.2
何かしようと思っても移動する方法がない	986	22.6
かかわる機会がない	1,608	36.9
復興にかんする情報がない	677	15.5
一緒にできる仲間がない	545	12.5
子どもにできないことがない	691	15.8
何をしたらいいかわからない	2,116	48.5
特にやりたくない	972	22.3
その他	250	5.7
無回答	67	1.5



※複数回答のため、% 合計は 100%を超えている。

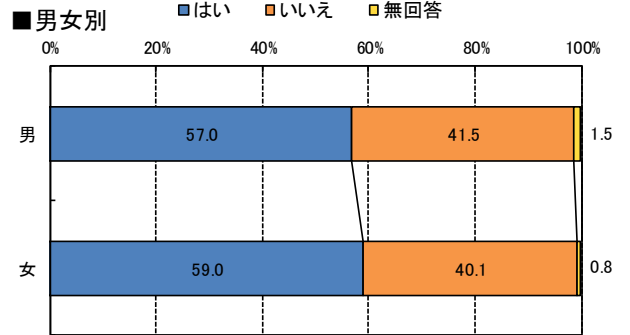
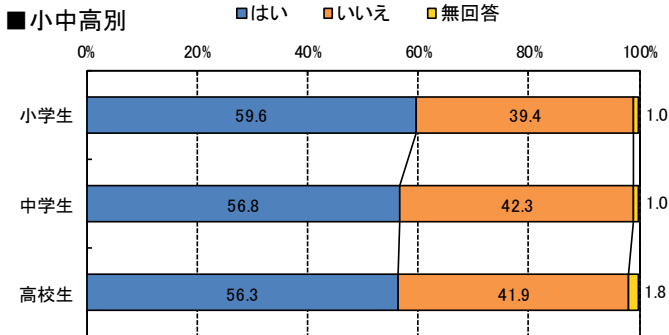
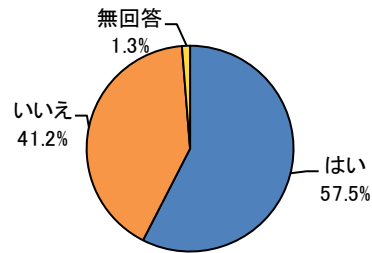
【属性ごとの回答】



3-(1). あなたは、自分のまちの復興のために何かしたことがありますか？

8,398人(57.5%)の子どもが「はい」と回答した。実際に自分のまちの復興のために「何かした」と答えた子どもの割合は、2-(1)で「何かしたい」と答えた子どもの割合に比べ12%少なくなった。

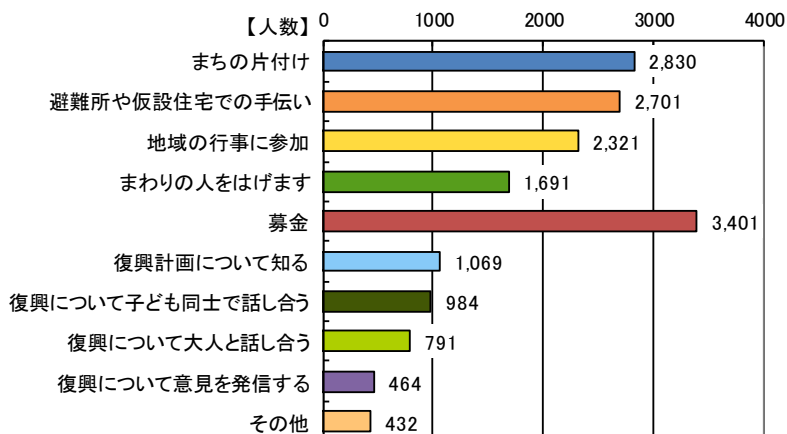
	調査数	%
全体	14,600	100
はい	8,398	57.5
いいえ	6,018	41.2
無回答	184	1.3



3-(2). 「はい」の人は、そのためにどんなことをしましたか？(複数回答)

全体では「募金」が圧倒的に多かった、高校生ではこれよりも「まちの片付け」、「避難所や仮設住宅での手伝い」の割合が高い。もう一方で、2-(2)の回答で比較的多かった「復興計画について知る」の割合が17%ほど低くなっている。

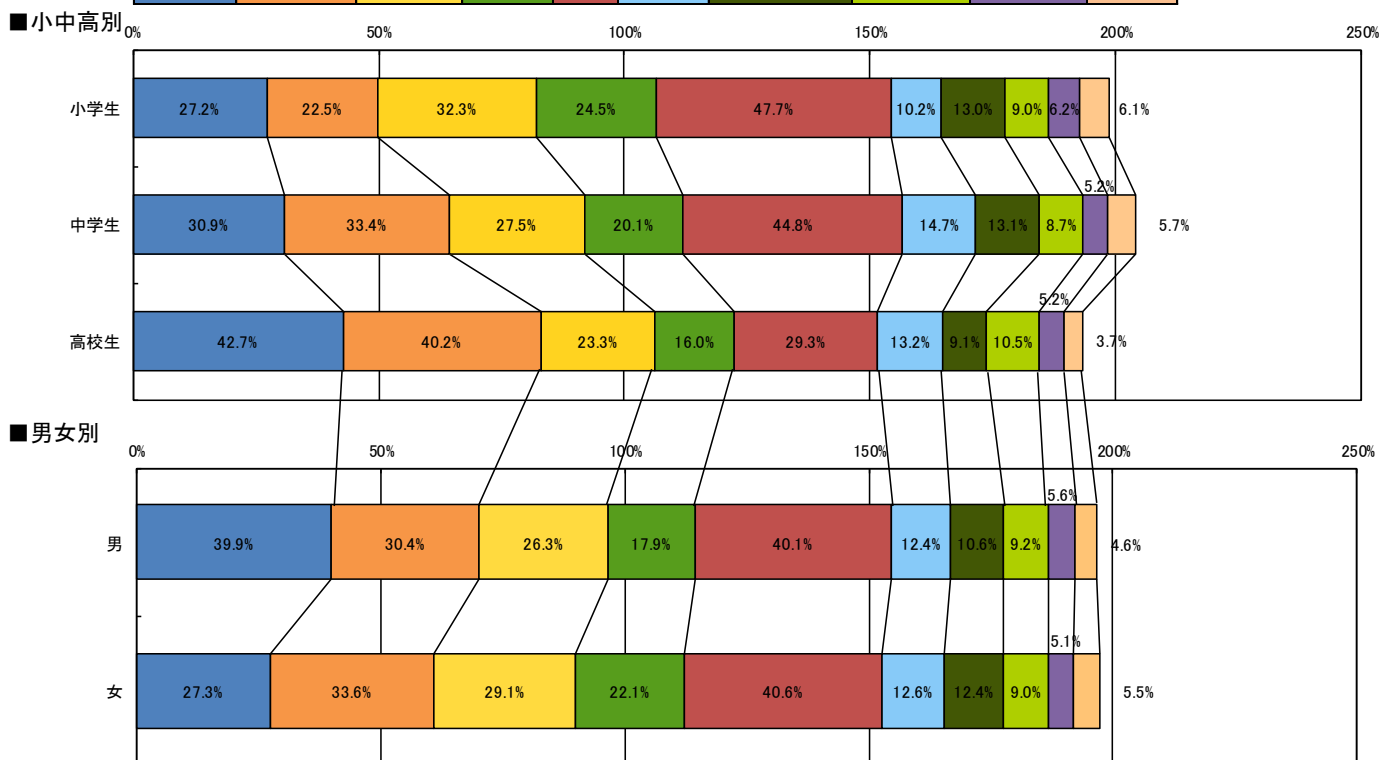
	調査数	%
全体	8,398	100
まちの片付け	2,830	33.7
避難所や仮設住宅での手伝い	2,701	32.2
地域の行事に参加	2,321	27.6
まわりの人を上げます	1,691	20.1
募金	3,401	40.5
復興計画について知る	1,069	12.7
復興について子ども同士で話し合う	984	11.7
復興について大人と話し合う	791	9.4
復興について意見を発信する	464	5.5
その他	432	5.1
無回答	54	0.6



※複数回答のため、% 合計は100%を超えている。

【属性ごとの回答】

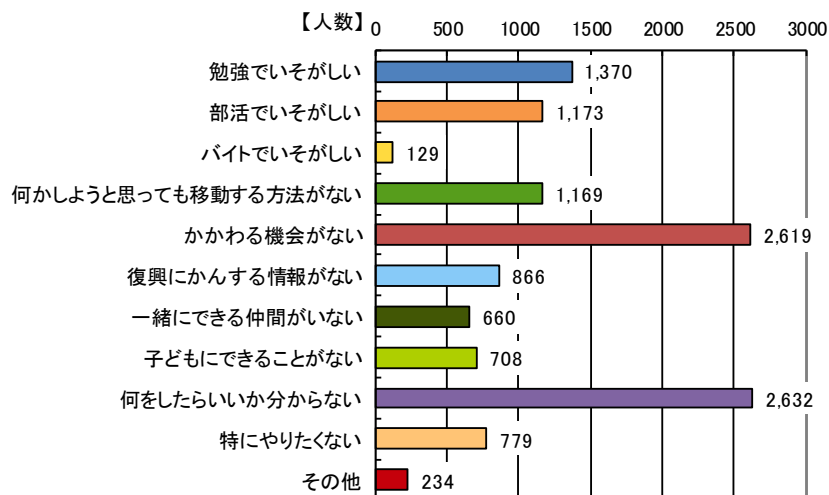
まちの片付け	避難所や仮設住宅での手伝い	地域の行事に参加	まわりの人を上げます	募金	復興計画について知る	復興について子ども同士で話し合う	復興について大人と話し合う	復興について意見を発信する	その他
--------	---------------	----------	------------	----	------------	------------------	---------------	---------------	-----



3-(3). 「いいえ」の人は、その理由を教えてください。(複数回答)

「かかわる機会がない」、「何をしたらいいかわからない」がほぼ同じで突出している。子どもが復興についての情報や機会がないために関わることができないのは、2-(3)と同様に子ども参加を阻む主要因と考えられる。次いで「勉強でいそがしい」、「部活でいそがしい」が多く、特に中高生は小学生に比べ「忙しい」割合が高い。何かしようと思っても移動する方法がないについては、震災の影響で交通手段が不十分であるため、子どもたちが思うように参加できていない可能性があるといえる。

	調査数	%
全体	6,018	100
勉強でいそがしい	1,370	22.8
部活でいそがしい	1,173	19.5
バイトでいそがしい	129	2.1
何かしようと思っても移動する方法がない	1,169	19.4
かかわる機会がない	2,619	43.5
復興にかんする情報がない	866	14.4
一緒にできる仲間がない	660	11.0
子どもにできないことがない	708	11.8
何をしたらいいかわからない	2,632	43.7
特にやりたくない	779	12.9
その他	234	3.9
無回答	205	3.4

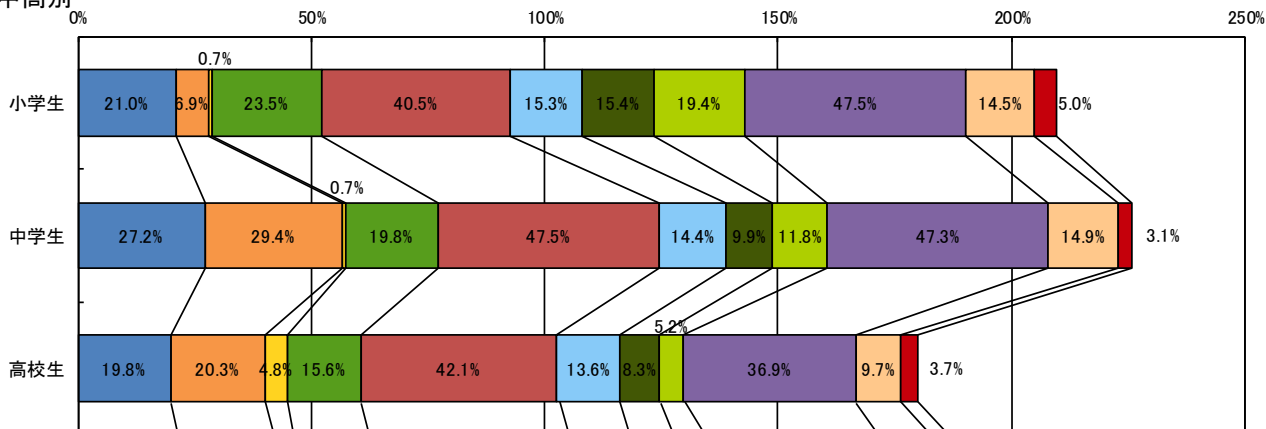


※複数回答のため、% 合計は 100% を超えている。

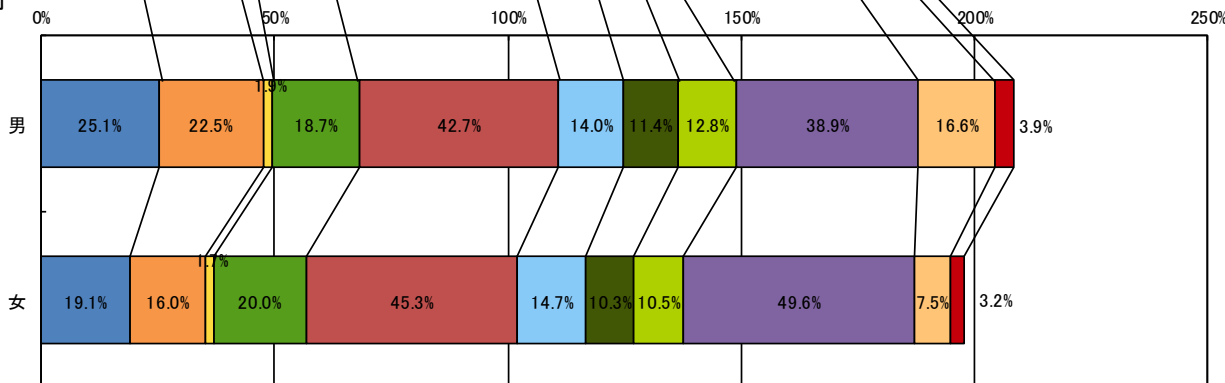
【属性ごとの回答】

勉強でいそがしい	部活でいそがしい	バイトでいそがしい	何かしようと思っても移動する方法がない	かかわる機会がない	復興にかんする情報がない	一緒にできる仲間がない	子どもにできないことがない	何をしたらいいかわからない	特にやりたくない	その他
----------	----------	-----------	---------------------	-----------	--------------	-------------	---------------	---------------	----------	-----

■ 小中高別



■ 男女別



4. 自分のまちの復興について、あなたが大人に伝えたいことを自由に書いてください。

自由回答には 7,948 人の子どもたちの声が寄せられた。内容については特に、自分のまちの現在・未来の姿、被災地への支援に関する感謝、自分たちを含む被災地への励まし、施設やインフラ整備、復興における子ども参加といった内容が多く見られた。

以下、寄せられた回答の中からいくつか抜粋し、記載する。(誤字・脱字もそのまま転記。順不同。)

- 日本中に、復興を頑張っていることを伝えたい。(石巻市・高1・男)
- まつばらはもどる(陸前高田市・小5・男)
- 大人も大変だけど、子どもも大変。お互い大変だから。協力大事やねん。(石巻市・中3・女)
- 私はまだ小6ですが、私以外のみんなも復興にかかわりたいと思っています。大きいことは、必ずできるとは限りませんが、小さいことをコツコツとしていくのは不可能ではないです。大人が知らない子どもの気持ちや子どもからみた復興、大人と子どもが力をあわせれば、できることは無限大にあるはず。なので、大人の方は子どもを信用して、復興を目指す仲間に入れてほしいです。私は子どもだからできない、がとてもしやです。だから一緒に復興していきたいです。(石巻市・小6・女)
- 私達も被災者であるという気持ちをすてて、復興に協力したいので、何かできることがあったら言ってください。(陸前高田市・高3・女)
- 子どもたちがもっと活動できる場をつくってほしい。(石巻市・高1・女)
- 大人の皆さんが陸前高田市の復興のために、少ない、希少な時を費やしていただき、本当に有難うございます。皆さんには、今、町のがれきの処理を行っていただいています。陸前高田市の完全復興については、僕達、未来の大人に任せてください。陸前高田市民の願いと思いを感しながら、復興を願い、そして叶えたいと思います。(陸前高田市・中2・女)
- 復興の作業をしている人たちにとてもかんしゃをしています。大きくなって少したったらどんな町になっているか楽しみです！(山田町・小4・男)
- 仮設住宅はたしかに必要なだが、子どもが遊べる場所を奪いすぎだと思う。(石巻市・高1・女)
- 学校がほしい。道路のじしんのひびわれをうめてほしい。(石巻市・小5・男)
- 前テレビでやっていたが、がれきを他の県が受け入れるかの時、放射のうが必要や、がれきを町に入れるな。とか言っていたのが残念だった。私達は、そのがれきだらけの町に往んでいる。放射のうが心配なのは分かるが少し悲しかった。(陸前高田市・中1・女)
- 「がんばれ東北！！」など、そういうものがたくさんかかれています。が、「がんばれ」は、私たちにとってもっとがんばれというもので、私たちはがんばってるので、もっとちがう言葉にしてほしいです！(石巻市・小5・女)
- 大人の事情で子供まで振りまわさないでほしいです。子供の意見も聞いてほしいし、大人がわがままになっていと思うので、震災を理由に、わがままにならないでほしい。あとは、子供にも何かやらせて下さい！！どんな小さな事でも協力しますっ！！(山田町・中2・女)
- 福島の食料がどーのこーの言ったり、がれきについて文句を言ったりしないで、今、一番困っている人達を助けてほしい。(石巻市・中3・男)
- これを書いても、どうせ伝わらない(石巻市・高2・男)
- 「復興」に無関心な人がいます。あなたではないですよ？(石巻市・中1・男)
- 今の山田町は、本当に復興していますか。私の未来は、どうなっていますか。子どもの意見が、つたわるようになりましたか。(山田町・中2・女)

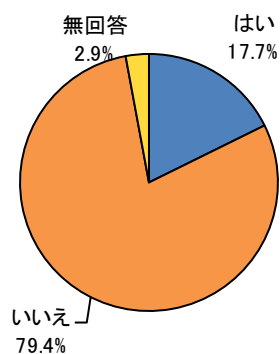
※6 この質問に対して寄せられた子どもたちのすべての声を、10月中旬以降 SCJ のホームページにて公開予定。

→ <http://www.savechildren.or.jp>

5. セーブ・ザ・チルドレンが「子どもまちづくりクラブ」という活動をしているのを知っていますか？

2,582人(17.7%)の子どもが、「子どもまちづくりクラブを知っている」と回答した。

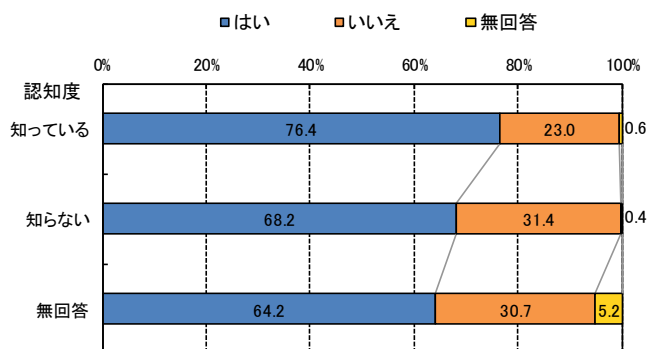
	調査数	%
全体	14,600	100
はい	2,582	17.7
いいえ	11,594	79.4
無回答	424	2.9



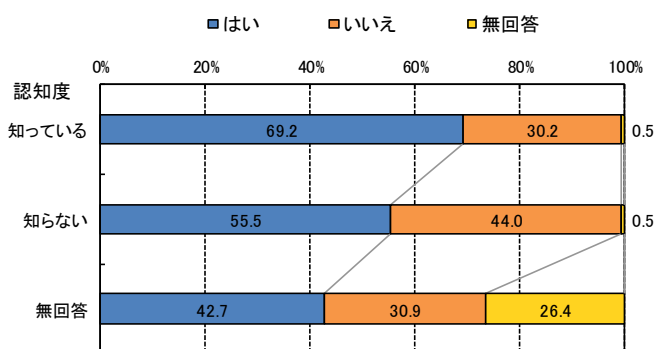
※7 「子どもまちづくりクラブ」とは、子どもたち自身が復興やまちづくりについて活動する場。2011年度の調査で明らかになった子どもたちの声を受け、2011年6月下旬より開始した。2012年8月現在、岩手県山田町、岩手県陸前高田市、宮城県石巻市の3つの地域で、小学校5年生～高校生のメンバーが、週1回ほど集まり、地域の復興やまちづくりにむけた話し合いなどの活動を行っている。

さらに、「子どもまちづくりクラブ」の認知度と、復興への参加についての相関関係を調べたところ、「子どもまちづくりクラブ」を知っていると回答した子どもは、2-(1)で「復興にかかわりたい」および3-(1)で「復興のために何かしたことがある」と回答した割合が「知らない」と回答した子どもよりも10%ほど高かった。

■2-(1) あなたは、自分のまちの復興にかかわりたいと思いますか？



■3-(1) あなたは、自分のまちの復興のために何かしたことがありますか？



IV. 専門家からの講評

安部芳絵氏（早稲田大学文学学術院助教）

これまで、日本の災害復興行政において、子どもは保護の対象とされてきた。しかし、国連子どもの権利委員会が示すように、子どもの意見表明・参加の権利は「危機的状況または直後の時期においても停止しない」のであり、復興プロセスにおいて子どもが意見を述べていくことは、「子どもたちが自分の生活を再びコントロールできるようにするうえで役立ち、立ち直りに寄与」すると考えられている〔国連子どもの権利委員会一般的意見第12号、2009年〕。

昨年に引き続き、2012年も、公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンは、子ども参加に関する意識調査を実施した。本調査では、岩手・宮城両県で1万5000人もの子どもたちの声を集めている。被災地域では、多くの団体が子ども支援を実施しているが、復興にかかわる子どもの声を聴く調査はほとんどみられない。

本調査によれば、実に69.5%もの子どもたちが、自分のまちの復興にかかわりたいと述べている。過去にある自治体で実施された調査では、「市／町の重要なこと」を決定するプロセスに参加したいと答えた子どもは非常に少なかった。その他の調査をみても、子どもの参加意欲は、これほど高い数値を示していない。「子どもだって何かしたい」という想いは、東日本大震災を経験した当事者であるからこそ湧いてくる想いであり、復興の大きな力になるのではないだろうか。

国連子どもの権利委員会は、復興プロセスにおける「プログラムの事前評価、立案、実施、モニタリングおよび事後評価において子どもたちの意見が募られるべきである」としている。これらのプロセスにおいて子どもの意見が聴かれるようにするために重要なことは、おとなが子どもの声に耳を傾けることである。復興で多忙を極めるなか、すべての自治体が、子どもを対象とした調査を実施するのは困難かもしれない。そこでまず、本調査の結果を、自治体をはじめとした災害復興にかかわるおとなたちが受けとめ、活用していくことから始めてはどうだろうか。

調査者：公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン

【お問い合わせ先】

公益社団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン 仙台事務所

担当：津田／東日本大震災復興支援事業部 プログラムマネージャー

〒980-0804 宮城県仙台市青葉区大町 1-3-7 横山ビル 2F

TEL: 022-263-4561 FAX: 022-263-4562、E-mail: soft@savechildren.or.jp